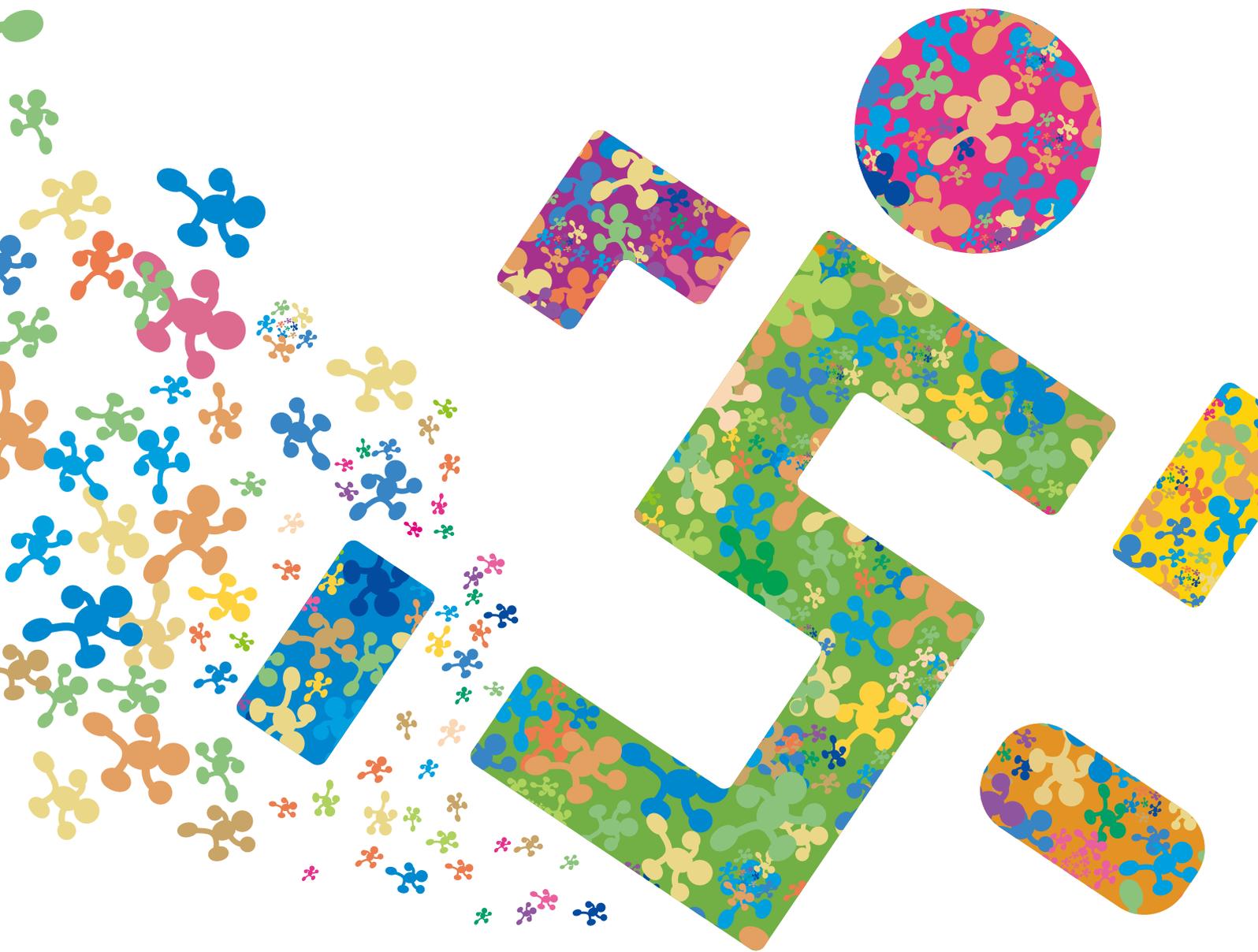


はずむスポーツ都市

第2次秋田市スポーツ振興 マスタープラン



はずむスポーツ都市

第2次秋田市スポーツ振興 マスタープラン

平成23年度～平成27年度



秋田市教育委員会
平成22年11月

目次

CONTENTS

第1章 プランの概要

- 1 策定の趣旨と背景 1
- 2 はずむスポーツ都市宣言 2
- 3 計画の位置づけ 2
- 4 計画期間 3
- 5 計画の体系 4

第2章 現状と課題

- 1 市民アンケートから見た課題 6
- 2 これまでの取組状況と課題 15

第3章 基本理念

- 1 スポーツの意義 16
- 2 基本方針・基本目標 17

第4章 プラン推進のための取組

- 1 市民の生涯スポーツの振興 18
- 2 地域スポーツの振興 22
- 3 指導者・リーダーの育成と活用 26
- 4 競技スポーツとスポーツ関係団体との連携支援 28
- 5 スポーツ施設の整備・活用 30

第5章 プラン推進のめやす

- 1 数値目標の設定 32
- 2 進行管理と見直し 34

《資料》

用語解説／秋田市スポーツ施設一覧／主な関係機関／策定経過／策定検討委員会委員名簿

第1章 プランの概要

1 策定の趣旨と背景

秋田市では平成17年3月に初めて、スポーツ振興に関する基本的計画として「秋田市スポーツ振興マスタープラン」を策定し、平成22年度までを計画年度として、生涯スポーツ社会の実現をめざしてきました。

この間に、秋田わか杉国体が平成19年に開催され、市内に11の総合型地域スポーツクラブ（※）が設立されるなど、スポーツ環境の整備が進んできています。

秋田県では、平成21年に「スポーツ立県あきた」を宣言し、国においては、平成22年8月に「スポーツ立国戦略」が策定されました。今後は「スポーツ振興法」に代わる「スポーツ基本法」の策定が予定されています。国や県では、生涯スポーツの振興とともに、競技力の向上に力を入れ、オリンピックのメダル数や、スポーツ王国秋田の復活を目標に上げています。

本市においては、秋田わか杉国体の開催を機に、市民が生涯にわたりスポーツを通じて健全な心身を育て、健康で明るく活力ある秋田市をめざすため、平成20年に「はずむスポーツ都市宣言」を決議しました。

第2次秋田市スポーツ振興マスタープランは、平成23年度からの5年間を計画期間とし、「はずむスポーツ都市」の実現に向けて策定するものです。策定に当たっては、限られた財源の中で、市民一人ひとりが健康で生涯にわたってスポーツを楽しめることがまず必要と考えました。そのためには、子どもの頃にスポーツ・運動の習慣をつけること、高齢者も気軽にスポーツ・運動を楽しめることが重要であり、そのきっかけづくりと、だれでも気軽に身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりに力を入れていきます。そのうえで、関係する団体や地域との連携・協働をはかりながら、指導者の育成と活用、競技力の向上、施設の整備についても、できる限り取り組んでいきたいと考えています。

本プランでは、「市民の生涯スポーツの振興」「地域スポーツの振興」「指導者・リーダーの育成と活用」「競技スポーツとスポーツ関係団体との連携支援」「スポーツ施設の整備・活用」の5つを基本目標として、市民一人ひとりが、主体的にスポーツ活動を楽しみながら、健康づくりや生きがいづくりに取り組むことができ、地域の活性化や絆づくりにつながる豊かなスポーツライフの実現をめざします。

2 はずむスポーツ都市宣言

スポーツは、健やかな心と体をつくり、明るく豊かな時をはぐくみます。

平成 19 年の秋田わか杉国体の開催を機に、「健康」「感動」「協力」を合い言葉として、市民が生涯にわたりスポーツを通じて健全な心身を育て、健康で明るく活力ある秋田市をめざすため、平成 20 年 12 月、秋田市議会で「はずむスポーツ都市宣言」を決議しました。

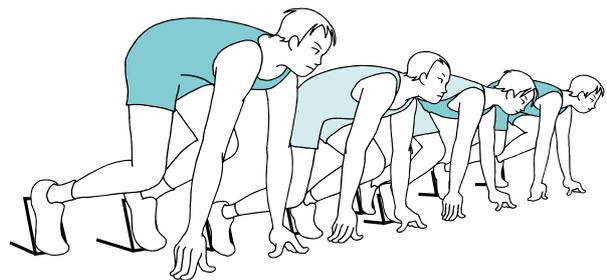
スポーツをみずから楽しみましょう

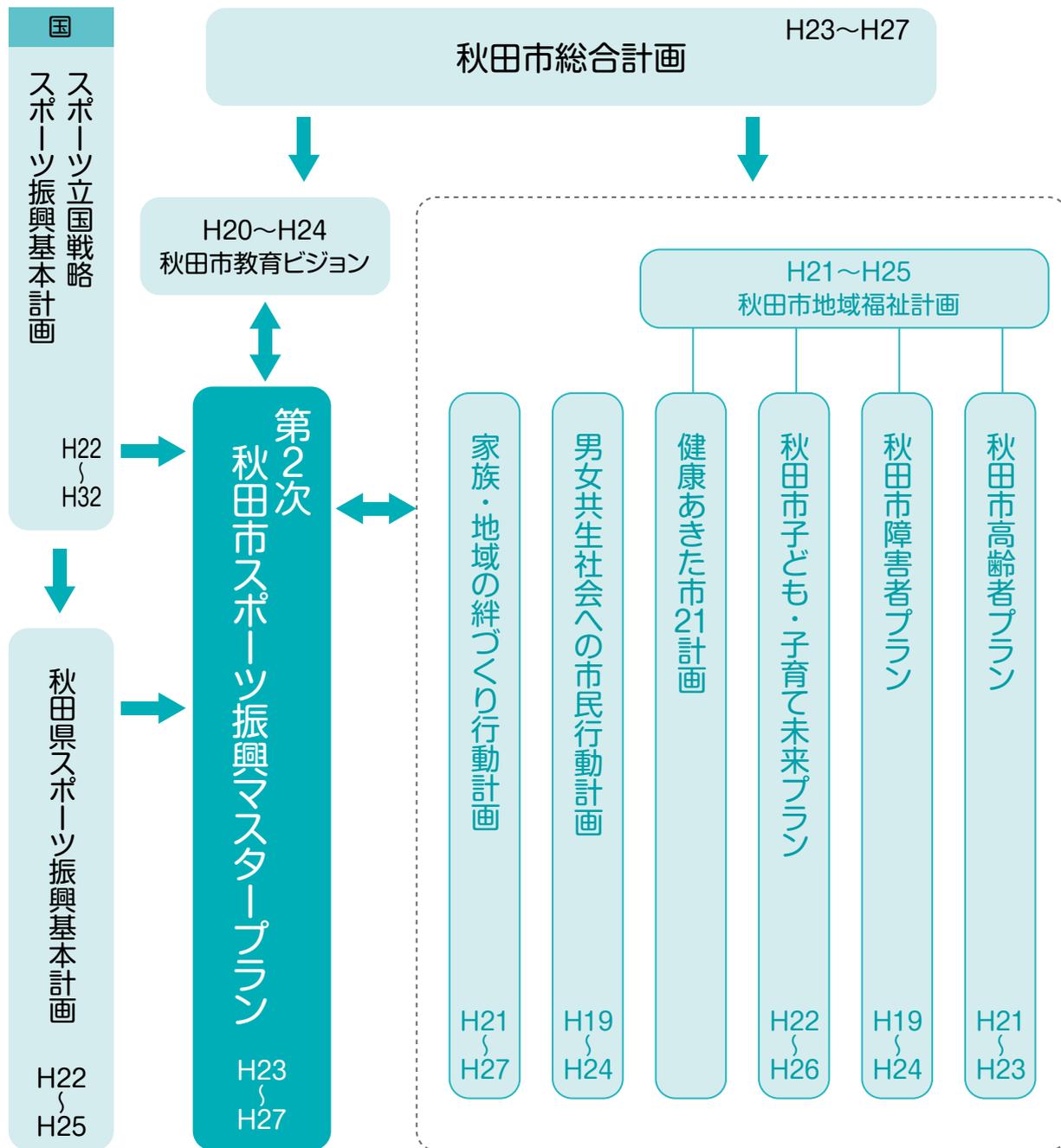
スポーツを見て楽しみましょう

スポーツをみんなで楽しみましょう

3 計画の位置づけ

- このプランは、秋田市総合計画、秋田市教育ビジョンに示すスポーツ振興の基本構想、基本方針に基づいた、本市のスポーツ振興に関する基本的・総合的な計画です。
- このプランは、国の「スポーツ振興基本計画」、「スポーツ立国戦略」を参考に、秋田市の実情に即し定めるもので、秋田県スポーツ振興基本計画～「スポーツ立県あきた」推進プラン～にも対応した、本市の主体的な取組です。
- このプランは、平成 17 年度から平成 22 年度を計画期間として定めた、これまでの「秋田市スポーツ振興マスタープラン」を検証し、スポーツを取り巻く環境の変化や市民のニーズに対応した第 2 次計画として策定するものです。





4 計画期間

第2次秋田市スポーツ振興マスタープランの計画期間は、平成23年度から平成27年度までの5年間とし、必要に応じて見直しすることとします。

5 計画の体系

基本方針

健康・感動・協力を合い言葉として、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につとめ、元気な「はずむスポーツ都市」をめざします。

基本目標 1 市民の生涯スポーツの振興

子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、一人ひとりのライフステージにおいて、気軽にスポーツに親しむことができるよう環境づくりと情報提供につとめます。

【数値目標】

週1回以上運動やスポーツを行う人の割合 38.4% → **65.0%**

(1) 気軽にスポーツに親しむ環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・気軽に参加できるスポーツ教室・スポーツイベントの開催・健康づくり運動の推進・高齢者のスポーツの振興・障がい者のスポーツの振興・冬季スポーツの振興
(2) 子どもの体育・スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none">・幼児・親子を対象にしたスポーツ教室・生涯スポーツの基礎づくり・学校体育の充実・スポーツ少年団の育成・ジュニアスポーツクラブの育成・充実・スポーツを継続できる環境づくり
(3) 各種スポーツ活動に関する情報提供	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ教室、イベント開催の広報活動・スポーツ施設やサークル、ニュースポーツなどの紹介・ホームページなどを活用したスポーツ・健康情報の提供

基本目標 2 地域スポーツの振興

地域の絆づくりと活性化をはかり、地域住民が主体的にスポーツに取り組めるよう、生涯スポーツ社会の基盤となる身近な地域で、スポーツを楽しむことのできる環境を整えます。

【数値目標】

市などが主催するスポーツ行事に参加する人の割合 22.2% → **30.0%**

(1) 総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成	<ul style="list-style-type: none">・地区体育協会、スポーツ少年団、学校関係者などへの啓発活動・ホームページや秋田市体育協会の機関誌を活用したクラブの紹介
(2) 地域のスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none">・地区ウォーキング教室・大会の開催・地区スポーツ教室、地区スポーツ大会の開催・全市一斉スポーツレクリエーション大会の開催・全市一斉ラジオ体操のつどいの実施
(3) 学校体育施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none">・学校開放事業の周知・学校開放スポーツ教室の実施

基本目標 3 指導者・リーダーの育成と活用

スポーツの楽しさを教え、生涯スポーツとの出会いへ導いてくれる指導者を育成するとともに、優れた指導者を活用できる環境づくりにつとめます。

【数値目標】

ジュニア指導者養成セミナーへ参加する団の割合 79.5% → 90.0%

(1) 優れた指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会などの開催 ・指導者への情報提供
(2) スポーツ指導者の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校部活動外部指導者派遣 ・競技団体などとの連携による指導者派遣 ・障がい者スポーツ指導者の確保 ・競技力向上につながる指導者の活用
(3) 体育指導委員・スポーツ推進員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズに応じた指導のための研修 ・地域のスポーツ振興のマネジメントに向けた研修 ・30代、40代の人材の育成

基本目標 4 競技スポーツとスポーツ関係団体との連携支援

スポーツによる交流で元気な秋田市をめざすため、スポーツを支える関係団体との連携を深め、競技スポーツや「みる」スポーツを支援します。

【数値目標】

スポーツボランティア活動に参加する人の割合 6.4% → 10.0%

(1) 競技スポーツへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・競技団体、クラブチーム、プロチームなどと連携した講習会や練習会の開催 ・東北大会、全国大会などに出場する小中学生への支援 ・競技力向上事業の活用
(2) スポーツイベントの開催とまちの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブチーム・プロチームとの連携 ・全国レベルの大会の誘致・開催 ・平成23年度インターハイの開催
(3) スポーツ関係団体・ボランティアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田市体育協会・加盟団体、サークルなどの育成、支援 ・スポーツボランティアの周知と活動しやすい環境づくり ・各関係団体との情報交換・連携
(4) スポーツを通じた交流活動	<ul style="list-style-type: none"> ・海外および国内の友好姉妹都市などとの交流

基本目標 5 スポーツ施設の整備・活用

市民のスポーツニーズに対応し、だれでも安全・快適に使用できるよう、生涯スポーツの拠点となる施設の整備充実と有効活用につとめます。

【数値目標】

1年間にスポーツ施設を利用する延べ人数 84万9千人 → 90万人

(1) スポーツ施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・一般開放、大会日程などの周知 ・予約案内システムの充実 ・ホームページを活用した施設の利用案内
(2) スポーツ用器具の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・競技用器具の整備、維持管理、更新 ・ニュースポーツなどの貸出用器具の整備、更新
(3) スポーツ施設の適正な維持管理と整備	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な施設の維持管理 ・市民ニーズに対応した施設整備 ・障がい者、高齢者にも使いやすい施設の整備・改修

第2章 現状と課題

1 市民アンケートから見た課題

平成20年7月に「スポーツに関するアンケート調査」を実施し、その結果をもとに、平成15年1月の調査結果と比較検討を行い、現状と課題を分析しました。

アンケートの概要

標本数：秋田市在住の20歳以上80歳以下の男女3,270名（転居先不明を除く）

実施期間：平成20年7月1日～7月14日

回収率：42.8%（有効票回収数1,399票／標本数3,270票）

男女比：男性40.2% 女性59.5%

※参考 平成15年調査回収率：38.9%

推進計画の進捗状況

数値目標項目（目標数値）	15年	20年	増減
総合型地域スポーツクラブ（市内に1つ以上）	0	8	8
週1回以上運動やスポーツを行う人の割合（50.0%）	31.8%	38.4%	6.6 ポイント
学校体育施設の一般開放を利用する人の割合（25.0%）	18.7%	17.1%	▲1.6 ポイント
市などが主催するスポーツ行事に参加する人の割合 （30.0%）	23.7%	22.2%	▲1.5 ポイント
スポーツクラブや同好会に加入している人の割合 （20.0%）	16.1%	20.0%	3.9 ポイント

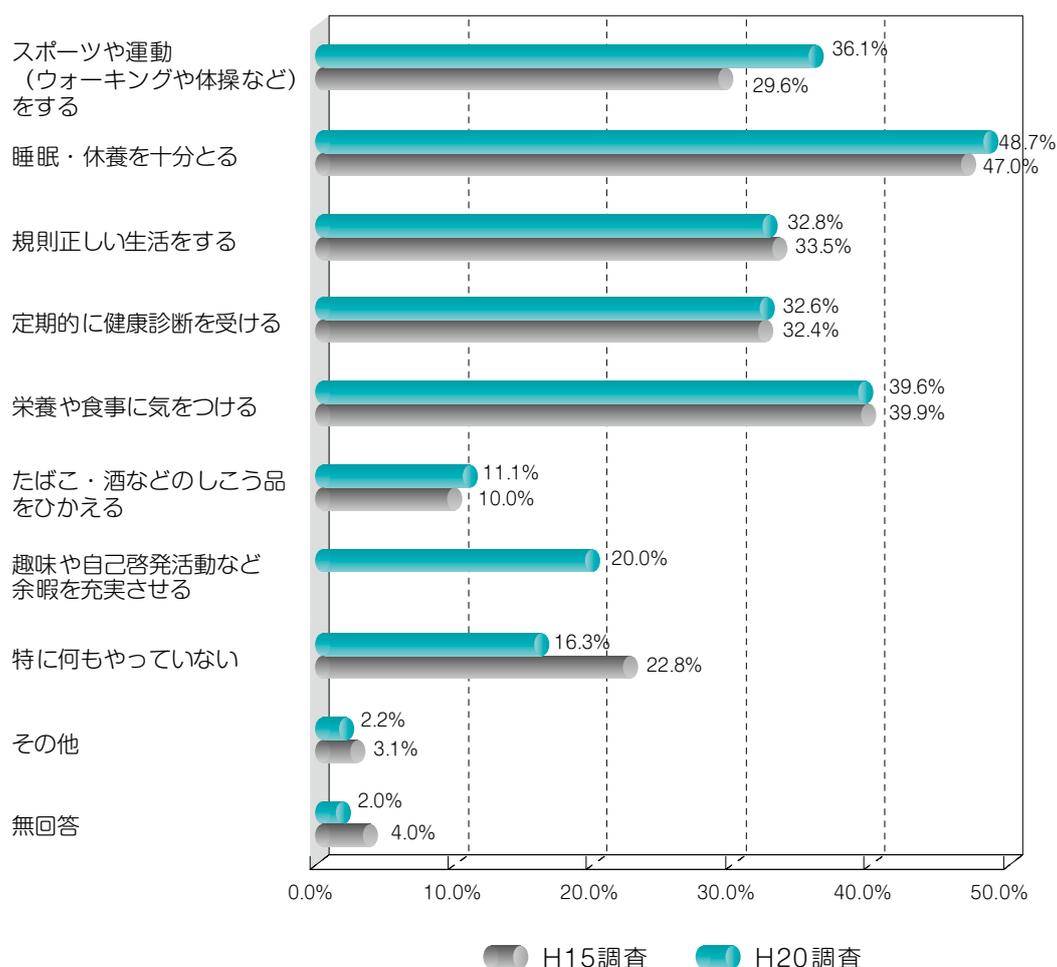


(1) 健康について

8割以上の方が“自分は健康である”と感じている反面、7割以上の方が何かしら“健康に対する不安を感じている”結果となりました。特に“肉体的な疲労”、“体力のおとろえ”を挙げる人が多く、現役世代である30歳代から50歳代が顕著となっています。

健康維持のため、“睡眠・休養を十分とる”という回答が一番多く、次いで“栄養や食事に気をつける”“スポーツや運動をする”という結果となり、健康維持のため生活習慣に気をつけていることが伺えます。前回調査と比較した場合、“スポーツや運動をする”が最も増加率が高く、スポーツを生活に取り入れて健康を維持しようとする人が増えています。

【健康維持のため心がけていること】(複数回答)



(2) 運動やスポーツについて

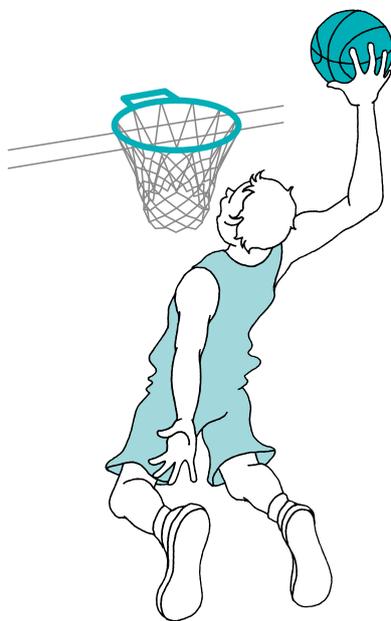
“運動やスポーツを行うこと”が好きな人が約7割、“観戦すること”が好きな人が約8割という結果になっています。

この1年間にスポーツを行った人は1割以上増加し、週1回以上運動やスポーツを行っている人も前回調査の31.8%から38.4%と増加しました。

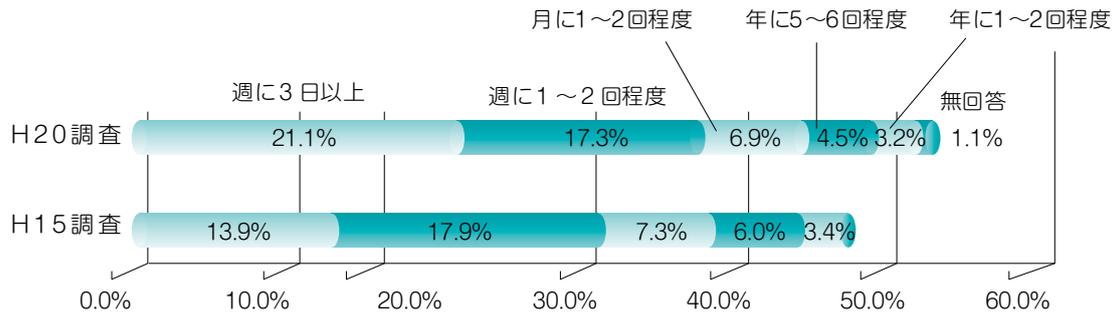
スポーツを行った理由としては、“健康や体力の保持、増進”を目的としている人が最も多く、前回調査からも1割以上増加しており、前記(1)のスポーツを生活に取り入れて健康を維持しようとする人が増えたことを裏付けるものです。

また、行ったスポーツの種目をみた場合、“散歩”や“軽い体操”が上位を占めており、場所や道具、季節を問わず行えるスポーツが多く実施されています。

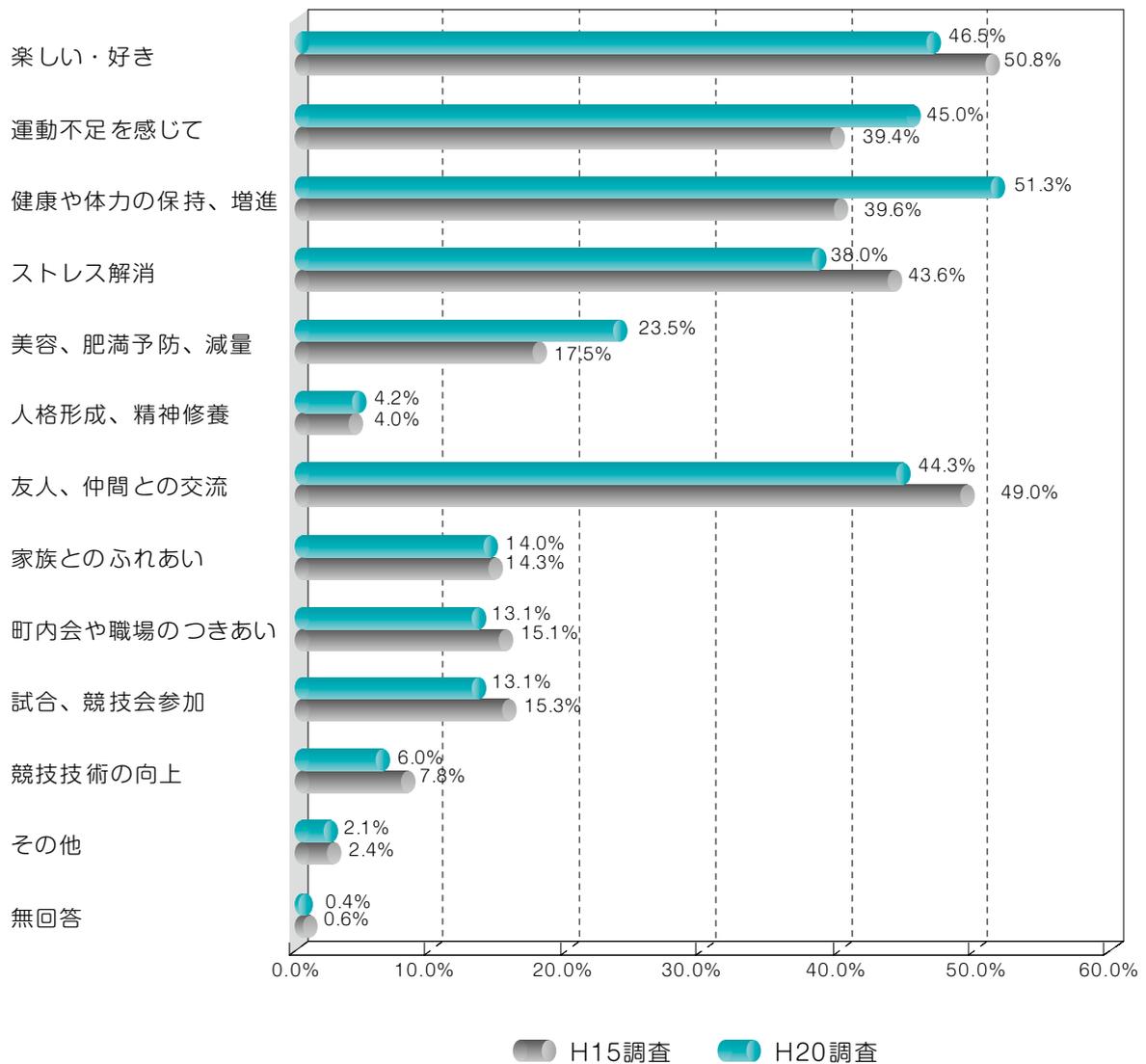
現在運動やスポーツを行っていない人も、5割以上の人が今後は行いたいと考えており、その種目も現在スポーツを行っている人と同じ傾向を表しています。



【スポーツを行っている頻度】



【運動やスポーツを行った理由】（複数回答）



(3) 秋田市にあるスポーツ施設について

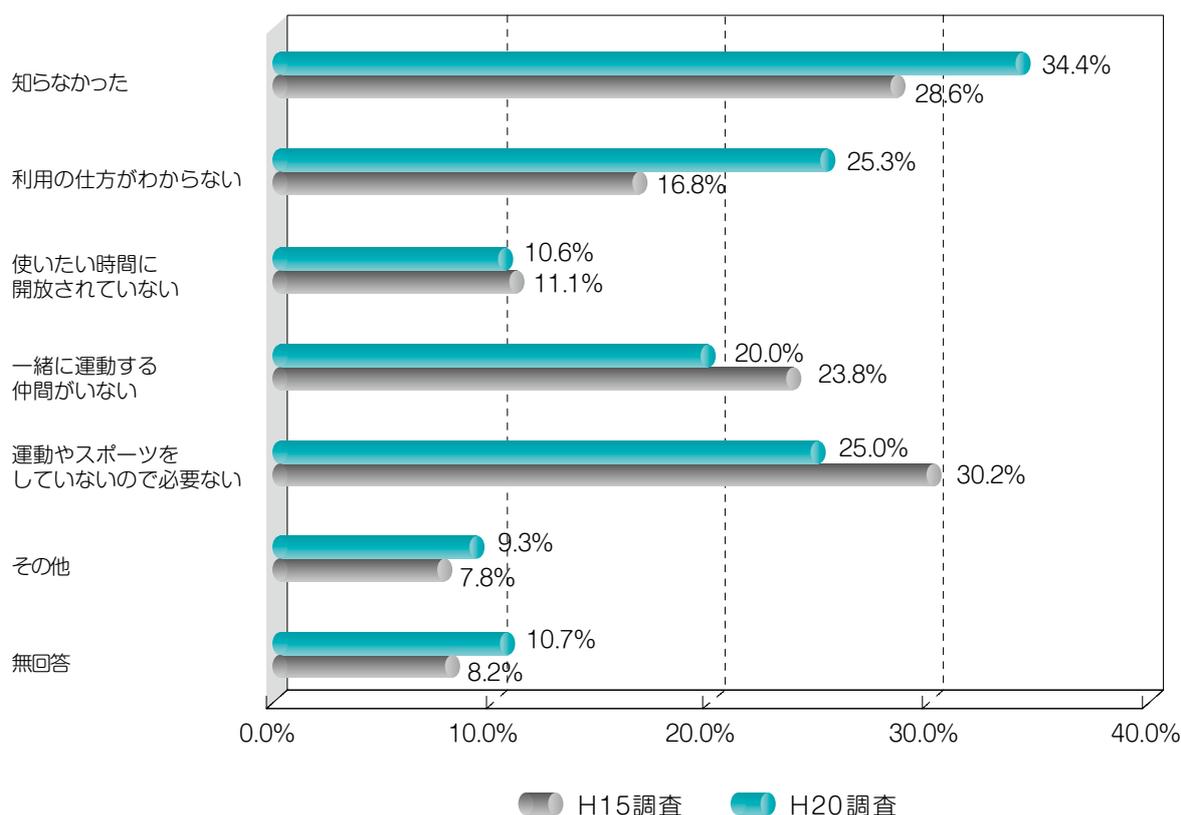
スポーツ施設が充足していると答えた人と、不足していると答えた人がほぼ同数という結果となりました。また、施設の確保については利用希望者の6割以上が確保できていると答えています。

身近に欲しい施設としては、“気軽な遊びや健康づくりのための運動スポーツができる施設”が62.9%と高い回答率となりました。不足していると思うスポーツ施設は、“トレーニング室”や“公園内運動広場”、“屋内多目的運動場”という結果で屋内型施設の不足が挙げられています。

(4) 小学校体育施設の一般開放について

小学校体育施設を利用したことがある人は17.1%にとどまり、前回調査の18.7%をわずかに下回りました。その理由としては“開放されていることを知らなかった”が34.4%、次いで“利用の仕方がわからない”が25.3%となっており、一般開放していることや、手続きについて市民の認知度が低いと言えます。

【小学校の体育施設を利用しなかった理由】(複数回答)



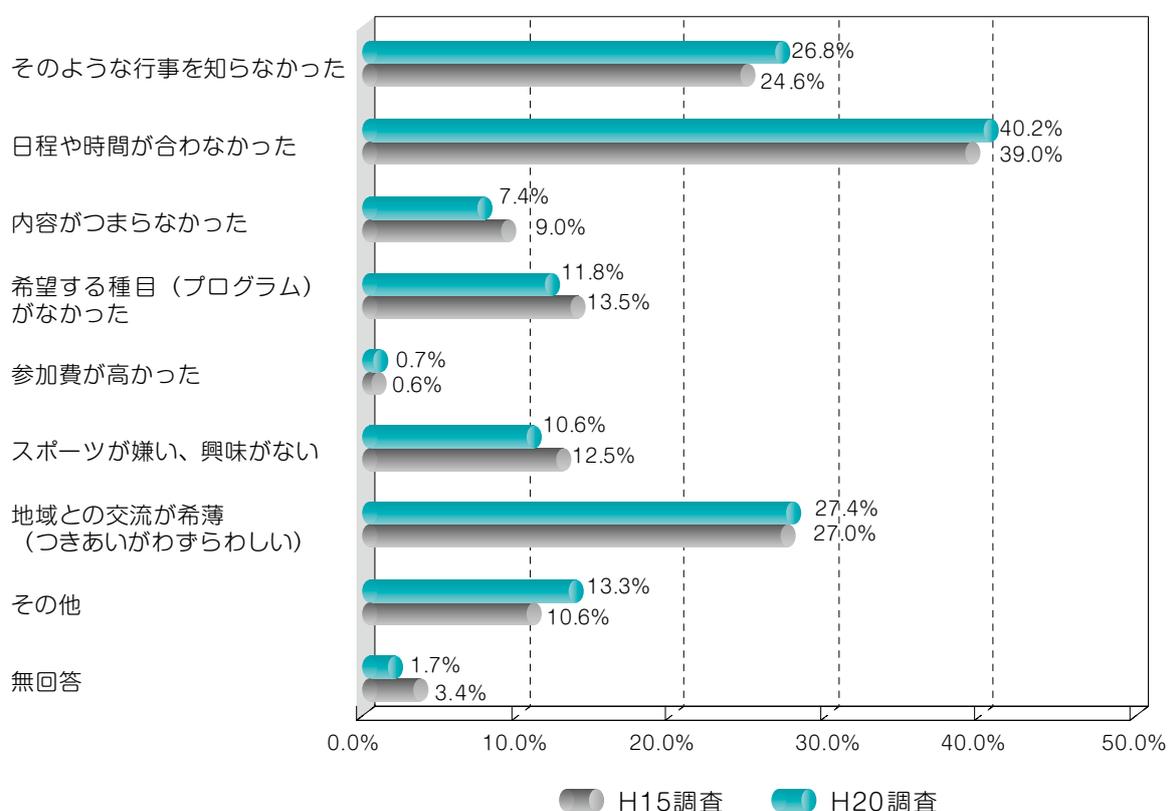
(5) スポーツ・レクリエーション行事について

市や町内会などが開催する行事への参加については、22.2%にとどまっています。

参加しなかった理由として、“日程や時間が合わなかった”が最も多く、“地域との交流が希薄”、“行事を知らなかった”と続いています。

今後参加を希望するスポーツ行事は、“レクリエーション的行事”や“健康づくり的行事”と比較的軽いスポーツ行事を希望する人が多くなっています。

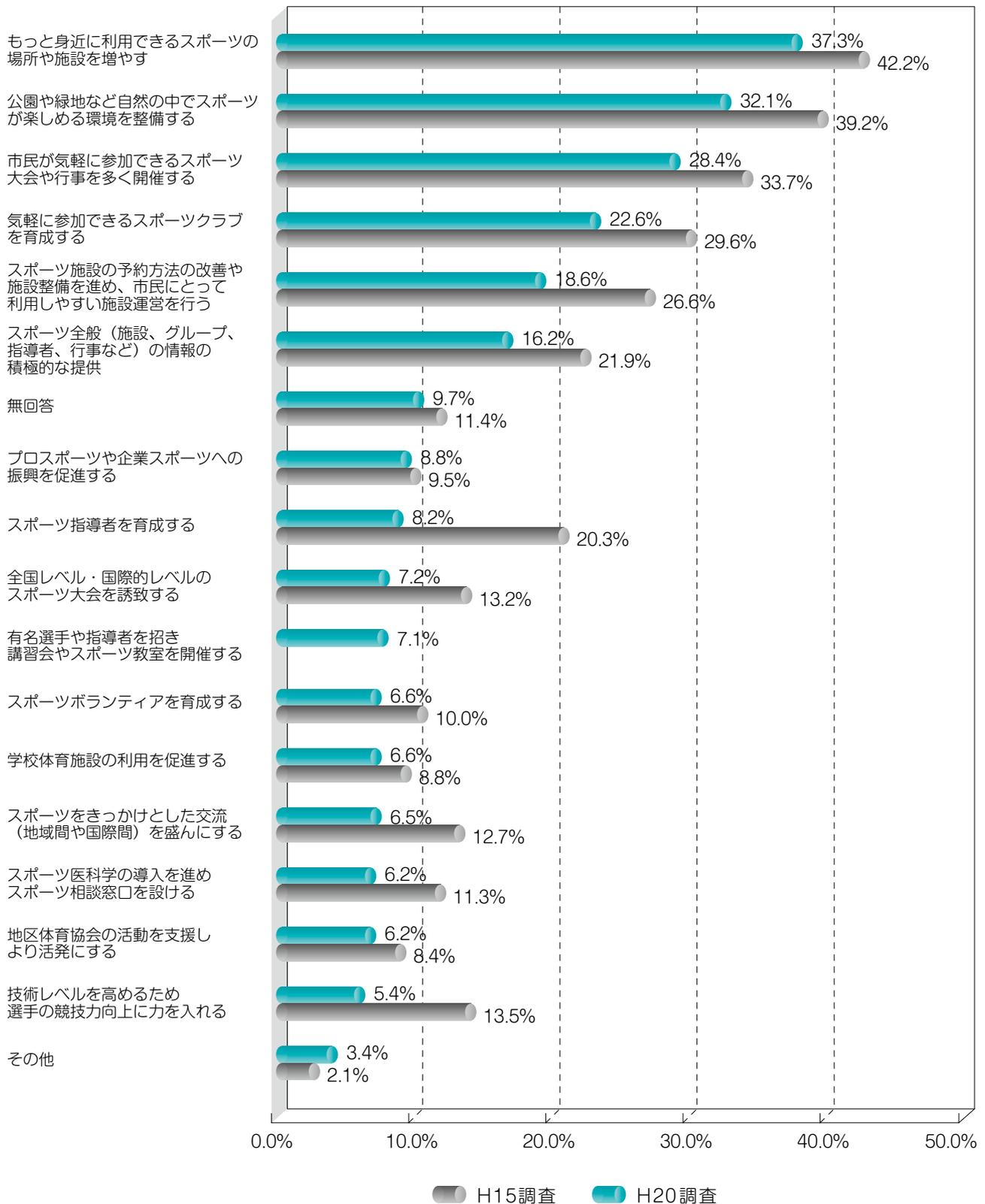
【参加しなかった理由】(複数回答)



(6) スポーツクラブや同好会について

市民の20.0%がクラブや同好会に加入しており、マスタープランの目標値20.0%を中間年で達成しました。その内訳は“広く同好者でつくるクラブや同好会”が最も多く、前回調査と比較しても3.9ポイント増となっています。また、今後加入してみたいクラブや同好会も、同じ結果を示しており、このことから、気の合う仲間とスポーツを楽しみたいという意向が伺えます。

【スポーツ活動を盛んにするために大切なこと】(複数回答)



(7) これからのスポーツ振興策について

スポーツ活動を盛んにするためには、身近に利用できる場所や施設を増やすことという意見が一番多く、スポーツをしやすい環境づくりが大切と考えている市民が多いと言えます。

多くの市民が参加できるイベントに対しては、ウォーキングとマラソンに続きグラウンドゴルフを挙げる人が多く、道具や特別な練習を必要とせず、競技性が低く年齢に関係なく参加できるものが好まれる傾向がありました。

(8) スポーツボランティアについて

ボランティア経験の有無については、あると回答した人は6.4%となり、これは市民の15人に1人の割合でスポーツボランティアを経験している計算となります。ボランティアを行った人の内訳をみると、秋田わか杉国体の運営協力員として参加した人が、半数以上を越え最も多く、調査の時期に影響したと思われます。

ボランティア未経験者のうち、18.4%が参加意向を示しており、前回調査と比較しても、“参加したいと思わない”人が減少し、“参加したいと思う”人が増加しています。特に秋田わか杉国体の開催により、大きな大会でのボランティアへの参加意識は向上していると思われます。

(9) 市民の意見から

このほかに、アンケートの中のスポーツ振興に関する意見要望として

- ・子どもたちが遊んだり体力向上のためスポーツできる教室や場所がほしい
- ・障がいのある人でも参加できるイベントやスポーツクラブがほしい
- ・高齢者が参加できるイベントや教室を開催してほしい
- ・競技力向上や、競技のレベルアップに力を入れてほしい
- ・プロチームを誘致してほしい

など、さまざまな声がありました。

また、施設整備を望む声が多い一方で、新たな施設は必要ない、税金の無駄使いだという声や、スポーツは嫌いだ、年をとっているからスポーツはできないという声もありました。

このように、市民アンケートからは、健康づくりに対する関心が高いこと、身近な場所で気軽に継続してスポーツを楽しむ環境づくりが求められていること、情報提供がもっと必要なことなどがわかります。

スポーツに興味はないが、健康のため運動したいという人もいます。スポーツに関心がなくても、地元のチーム、地元出身の選手ががんばっていれば応援したくなるかもしれません。スポーツをしない、関心がないという人たちにどのようにして興味関心を持ってもらうかは重要な課題です。

まとめ／市民アンケートから見た課題

現在スポーツをしていない人でも、今後してみたい、観戦することが好き、という人が多かったことから、スポーツを楽しむきっかけづくりが必要であると言えます。そのためには

気軽にスポーツをして楽しむイベント・教室の開催

スポーツをみて楽しむイベントの開催

市民の健康づくりにつながるスポーツの推進

スポーツ施設・教室・イベントなどの情報提供・PRの工夫

が課題となります。

また、スポーツを継続していくために、身近な場所でスポーツを楽しめる環境づくりが必要であると言えます。そのためには

総合型地域スポーツクラブやサークルなどの育成

指導者やスポーツボランティアの育成と活用

身近な学校体育施設の利用促進

市民ニーズに応じた施設の整備

が課題となります。

2 これまでの取組状況と課題

○平成17年度のプランに基づき、スポーツに親しむきっかけづくりとして、平成18年度から始めたエンジョイスports教室、青空Sports教室には、平成21年度までに2,660人が参加し、教室をきっかけとして新しいSportsに取り組んだり、サークルへ加入したりするなど、継続してSportsに親しむ人が増えています。

平成20年度の時点で、週1回以上Sportsを行う人の割合は38.4%で、目標としていた50%にはまだ開きがありますが、国では、平成22年8月に「Sports立国戦略」を策定し、生涯Sports社会の実現に向けて、成人のSports実施率の目標を65%としています。これは健康の維持の観点からも重要な意味を持つものであり、本市としても取り組むべき課題であると言えます。

○学校体育施設の一般開放利用者は、児童数の減少や学校の統合、学校の改修工事などの影響があり、平成21年度では平成17年度に比べ約38,000人減少し、延べ554,800人となっています。Sports少年団（※）以外の団体登録利用は約2,000人増えており、身近な地域でのSports活動が定着してきました。一方で個人が自由に利用できる指定開放日の利用者が減少してきており、身近に利用できる施設としての学校体育施設の活用について検討する必要があります。

○本市のSports少年団の加入率、指導者の資格の保有率は、全国でもトップレベルです。児童数の減少とともに団員数も減ってきていますが、小学生の加入率はあまり変わらず30%近い数字となっています。しかし、一部では指導者が勝つことだけにこだわり、活動の基準を守らなかつたり、子どもが楽しむことができないといった声も聞かれます。また、Sports少年団と地域や学校とのかかわり方も大事な問題です。

○クラブチームやプロチームの活躍は、「みる」Sports、「支える」Sportsとしての楽しみのほか、地域経済の活性化の面でも期待される場所ですが、施設の整備費用の負担や、市民が施設を利用しにくくなるといった問題も出ています。

○Sports振興に対する期待が高まる中で、厳しい財政状況が続いており、財源の確保や、秋田市Sports振興基金（※）の有効活用について検討する必要があります。

第3章 基本理念

1 スポーツの意義

スポーツは、人生をより豊かにし、だれもが楽しむことができる世界共通の文化です。

スポーツは、人間が本来持っている体を動かすという欲求にこたえ、爽快感、達成感、仲間との連帯感などの精神的充足や楽しさ、喜びをもたらします。さらには、体力の向上や精神的ストレスの発散、生活習慣病の予防など心身の両面にわたる健康をつくります。

また、子どもたちの心とからだを育て、社会性やコミュニケーション能力、思いやりの心を育みます。子どもの頃の運動習慣は、成人してからの運動習慣や健康維持につながります。

さらに、高齢者や障がい者の健康保持や生きがいづくりとしてだけでなく、介護予防やリハビリテーションとしての効果も期待されています。

心身の健康が保たれることで、医療費の削減にもつながります。特に、秋田県はがん死亡率や自殺率が全国ワーストとなっており、心身の健康づくりが必要とされています。

スポーツは、人間関係が希薄化している現代社会、地域社会において、家族や地域の絆をはぐくみます。また、町内会や地区体育協会、総合型地域スポーツクラブなどの地域住民が主体的にスポーツに取り組むことで、地域の連帯感や活力が生まれます。

さらに、多くの人が集まるスポーツイベントは、地域経済を活性化し、まちのにぎわいをつくります。

「する」スポーツだけでなく、「みる」スポーツは、生活の質的向上やゆとりにつながるだけでなく、夢や元気、感動を与えてくれます。また、スポーツ指導者やボランティアなどでスポーツの支援にかかわる「ささえる」スポーツは、自己実現、社会貢献にもつながります。

また、同一のルールの下で互いに競うことにより、言語や生活習慣の違いを超えた交流を可能にし、国際的な理解を深め、友好親善に寄与します。

本市では、「秋田市を元気にすること」「元気な秋田市を次世代に引き継ぐこと」の実現をめざしており、スポーツに期待される役割は、今後一層高まることが予想されます。

このように、スポーツにはさまざまな意義とかかわり方があり、遊び（play）から健康づくり、競技スポーツまで、だれもが生涯にわたってスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現が求められています。

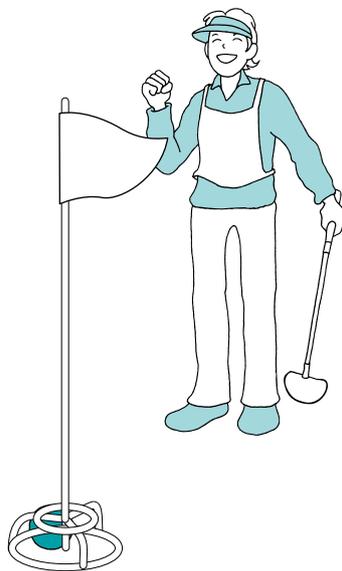
2 基本方針・基本目標

基本方針

健康・感動・協力を合い言葉として、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現につとめ、元気な「はずむスポーツ都市」をめざします。

基本目標

1. 市民の生涯スポーツの振興
2. 地域スポーツの振興
3. 指導者・リーダーの育成と活用
4. 競技スポーツとスポーツ関係団体との連携支援
5. スポーツ施設の整備・活用



第4章 プラン推進のための取組

1 市民の生涯スポーツの振興

子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、一人ひとりのライフステージにおいて、気軽にスポーツに親しむことができるよう環境づくりと情報提供につとめます。

(1) 気軽にスポーツに親しむ環境づくり

参加しやすいスポーツ教室やスポーツイベントの開催により、スポーツに親しむきっかけづくりと、だれでも気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりにつとめます。

○ 気軽に参加できるスポーツ教室・スポーツイベントの開催

市民のだれもがスポーツに親しめるように市民のニーズやライフステージに対応したスポーツ教室を開催するほか、だれでも気軽に参加できるスポーツイベントを開催します。

- ・スポーツに親しむきっかけづくりとするため、いろいろな種目のスポーツ教室を曜日や時間帯を変えて実施します。
- ・市民の健康と体力づくりのため、体育の日に体力テストやウオーキング大会のほか、いろいろなスポーツの体験ができる「健康のつどい」を開催します。
- ・市民にスポーツの楽しさ、すばらしさを知ってもらい、スポーツに対する関心、意欲を高めるため、著名な講師によるスポーツ講演会を開催します。
- ・家族などのペアや高齢者でも参加できるファミリーマラソン大会、地域や職場の親睦交流を目的とした8人制男女混合バレーボール大会を開催します。

○ 健康づくり運動の推進

健康づくり教室やウオーキング教室などの開催により、運動習慣の定着をはかり、生活習慣病の予防や体力の向上、健康増進をめざします。

- ・生活習慣病について理解し、積極的な健康づくりに取り組めるように、運動指導等を実施します。《保健予防課》
- ・健康づくりにつながる運動・スポーツの取組について、各企業や職場へ働きかけます。

○ 高齢者のスポーツの振興

地域の中で、仲間とともにスポーツを楽しみ、心身の健康保持や、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）（※）などにより要介護となることを予防するだけでなく、生きがいや社会参加につながるよう、スポーツ・レクリエーション活動への参加を促進します。

- ・ 要介護状態となることを予防するため、水中運動や軽スポーツなどの教室を開催します。
《介護・高齢福祉課》
- ・ 高齢者を対象に、運動を習慣化し、体力の向上につながるよう、地区で教室を開催します。
《保健予防課》
- ・ 高齢者でも楽しめるスポーツや、手軽にできる運動プログラムの普及につとめます。

○ 障がい者のスポーツの振興

それぞれの障がいに応じて楽しむことができるよう、関係団体と協力しながら、スポーツのきっかけづくりや環境づくりの支援をはかります。

- ・ 秋田県や秋田県障害者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツ大会などの支援をします。
《障がい福祉課・健康管理課》

○ 冬季スポーツの振興

本市の自然条件を生かして、スキーやスケート、歩くスキー、スノートレッキングの教室開催など、生涯スポーツとしての冬季スポーツの振興をはかります。

- ・ スポーツ少年団を対象としたスキー・スノーボード教室を開催するとともに、スキー教室等を開催する子ども会などの団体に対し、バス代を支援します。
- ・ 冬期間の体力づくりに役立ち、だれでも楽しむことができる歩くスキー、スノートレッキングなどの教室を開催します。



(2) 子どもの体育・スポーツ活動の推進

基礎的な体力・運動能力を身につけ、スポーツの楽しさを実感することにより、子どもの心身の健康をはぐくみ、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培います。

○ 幼児・親子を対象にしたスポーツ教室

体を動かすことの楽しさを実感することにより、小学校入学前からスポーツに関心を持ってもらうとともに、家族や人とのふれあいの機会を提供します。

- ・ 秋田大学などの協力を得て、市立体育館を会場に幼稚園や保育所の年長児を対象としたスポーツ教室を開催します。
- ・ 運動やスポーツの楽しさを多くの子どもたちが体験できるよう、親子でふれあいながら体を動かすスポーツ教室や、親子と一緒に参加できるスポーツ教室を開催します。

○ 生涯スポーツの基礎づくり

子どもたちが、指導者・仲間とのふれあいの中で、いろいろなスポーツを体験することにより、生涯続けていけるスポーツと出会い、スポーツ・運動の楽しさを実感するとともに、基礎的な体力・運動能力を育て、生涯スポーツの基礎を培います。

- ・ 地区体育協会や体育指導委員（※）・スポーツ推進員（※）、総合型地域スポーツクラブなどと、学校との連携をはかりながら、地域の子どもたちにスポーツの基礎知識や楽しさを伝えるスポーツ教室を開催します。

○ 学校体育の充実

体づくり運動などを通して、生涯にわたって積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育てます。

○ スポーツ少年団の育成

地域社会の中で、子どもたちの心と体を健やかに育て、楽しくスポーツを続けられるよう、スポーツ少年団本部や育成会との連携を深め、指導者の育成や団員の加入促進をはかるほか、指導プログラムの作成や活動基準の明確化をはかります。

- ・ 加入促進をはかるためのリーフレットを作成し、小学生に配布します。
- ・ 基礎的な体力・運動能力を高める基礎練習プログラムを作成し、実技指導に役立てます。
- ・ 勝敗だけにこだわらず、多様な活動を通して子どもたちが成長できるよう、活動基準の遵守と活動種目以外の地域行事などへの積極的参加を呼びかけます。

○ ジュニアスポーツクラブの育成・充実

体を動かすことの喜びや楽しさの体験を通じて、運動好きな子どもを育てることをねらいとして、スポーツ少年団加入前の小学生を対象に、各地域で組織されているジュニアスポーツクラブ（※）に対し、情報交換や指導者の派遣などの支援を通して、活動の活性化をはかります。

- ・現在、4つのクラブが活動しており、活動の継続、活性化に向けて、情報交換会を開催します。また、休止中のクラブや新たなクラブの立ち上げを支援していきます。

○ スポーツを継続できる環境づくり

総合型地域スポーツクラブや地域のスポーツサークルとの連携により、小・中学校などで取り組んできたスポーツを続けていける環境づくりを推進します。また、スポーツが苦手な子どもや、中学・高校に自分のやりたい部活動がなかった子どもにも、自分のレベルにあったスポーツが楽しめるような環境づくりにつとめます。

(3) 各種スポーツ活動に関する情報提供

市民が興味・関心を持ち、積極的にスポーツに親しむことができるよう情報提供につとめます。

○ スポーツ教室、イベント開催の広報活動

広報あきたや、秋田市ホームページ、ポスター、リーフレットなどのほか、新聞、テレビ、ラジオなどいろいろな媒体により、スポーツ教室、イベントなどの主催事業を広く市民に周知します。

○ スポーツ施設やサークル、ニュースポーツなどの紹介

市内にあるスポーツ施設、スポーツサークルのほか、ニュースポーツ（※）などのルールや教室の情報を提供し、スポーツに親しむ環境づくりを進めます。

○ ホームページなどを活用したスポーツ・健康情報の提供

主催事業以外にも、スポーツや健康に関する教室などの情報を集め、ホームページで一括して掲載するほか、体育館などでも確認できるようにし、スポーツに親しむ機会を増やします。また、スポーツや健康への関心が高まるようスポーツ・運動の重要性をPRします。

2 地域スポーツの振興

地域の絆づくりと活性化をはかり、地域住民が主体的にスポーツに取り組めるよう、生涯スポーツ社会の基盤となる身近な地域で、スポーツを楽しむことのできる環境を整えます。

(1) 総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成

秋田県広域スポーツセンター（※）と連携し、身近な地域でだれでも気軽に自分の好きなスポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成をはかります。

○ 地区体育協会、スポーツ少年団、学校関係者などへの啓発活動

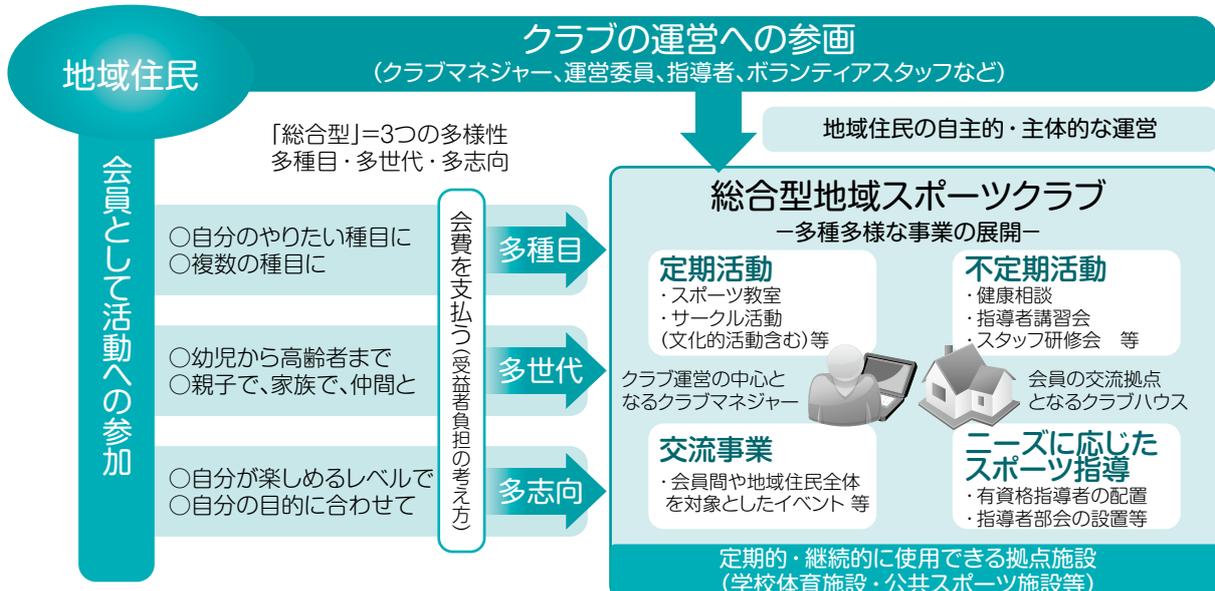
総合型地域スポーツクラブの特徴や意義について、広く啓発活動を行い、中学校区単位で1カ所設立できるよう支援していきます。

○ ホームページや秋田市体育協会の機関誌を活用したクラブの紹介

秋田市ホームページや（財）秋田市体育協会（※）の機関誌を活用して、総合型地域スポーツクラブの紹介を行い、クラブの活動を市民に知ってもらい、加入者の増加やほかの地区での立ち上げにつなげます。

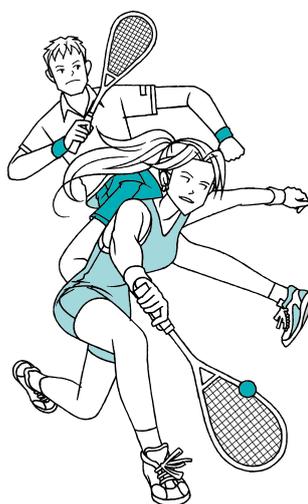
総合型地域スポーツクラブの例

文部科学省ホームページより



総合型地域スポーツクラブの状況 (H22)

	クラブ名	会員数	活動拠点	備考
1	スポーツクラブあきた	178	北都銀行グラウンド、遊学舎	青少年はサッカー、女性はエアロビクス
2	グリーン異会	48	一つ森公園コミュニティ体育館	中高年者を中心にストレッチ・筋トレ・有酸素運動を行っている。
3	秋田ノーザンブレックラグビーフットボールクラブ	1,928	新屋運動広場	トップチームとしての力量を高めることも視野に、ラグビーの底辺拡大を狙ったクラブ
4	グリーンスポーツ倶楽部	189	市立体育館 県立体育館	毎週中高年者を中心に軽スポーツを行っている。
5	エスポルチ秋田	653	エスポルチタウン、雄和体育館	サッカーと野球を中心に、水泳教室や農業体験も行っている。
6	下浜スポーツクラブ SUN-Q	233	公共スポーツ施設	野球、ミニテニス、ウォーキング等
7	弥生スポーツクラブ	69	一つ森公園コミュニティ体育館、サンライフ秋田	バスケットボール、ソフトボール、スキー等
8	S REAL JAPON 総合型地域スポーツクラブ	75	外旭川小体育施設 外旭川地域運動広場	少年サッカー、ソフトバレー、フットサル、グラウンドゴルフ等
9	ユニアン城東 スポーツクラブ	145	東小体育施設 広面小体育施設	サッカー、フットサル、スキー、ファミリーバドミントン等
10	桜・遊	356	桜小体育施設 一つ森運動公園	婦人健康体操、ニュースポーツ、レクリエーション活動
11	TT スポーツクラブ	50	太平地区ゲートボール場、コミュニティセンター	ゲートボール、グラウンドゴルフ、8人制バレーボール



(2) 地域のスポーツ活動の推進

スポーツを通じた家族、地域の絆づくりと地域の活性化をはかり、生涯スポーツ社会の基盤づくりにつとめます。

○ 地区ウォーキング教室・大会の開催

ブロック体育協会、地区体育協会、体育指導委員・スポーツ推進員が中心となり、地域でのウォーキングを普及させ、運動習慣の定着や健康増進をはかります。

- ・正しいウォーキングの知識を身につけ、健康づくりにつながるウォーキングに取り組む人が増えるようウォーキング教室を小学校区単位で開催します。
- ・市内8ブロックで、地域の自然、特性を生かしたモデルコースマップを作成し、地域ウォーキング大会を開催することにより、継続して運動に取り組むきっかけづくりをします。

○ 地区スポーツ教室、地区スポーツ大会の開催

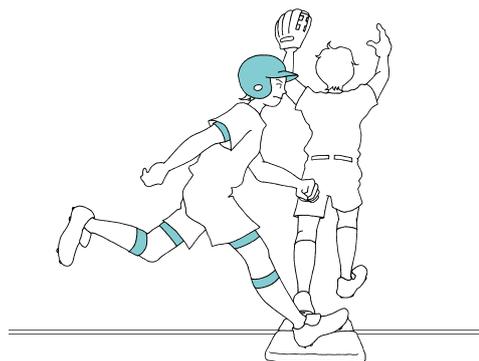
地域住民の交流を活発にし、スポーツを通じた健康づくりと生涯スポーツの振興をはかるため、地区体育協会、体育指導委員・スポーツ推進員が中心となり、小学校区単位でのスポーツ教室、スポーツ大会を開催します。

○ 全市一斉スポーツレクリエーション大会の開催

家族や地域の絆づくりや学校と地域の交流をはかりながら、スポーツに親しむきっかけづくりをするため、9月の第2日曜日に各小学校のグラウンドなどを活用し、地域住民が多数参加できる運動会などのスポーツレクリエーションを実施します。

○ 全市一斉ラジオ体操のつどいの実施

子どもたちや地域住民の交流と、運動習慣の定着、健康増進をはかるため、夏休みの初日に各小学校のグラウンドなどで、ラジオ体操の講習会を行います。



(3) 学校体育施設の利用促進

地域の身近なスポーツ施設として、学校体育施設の効率的な活用をはかります。

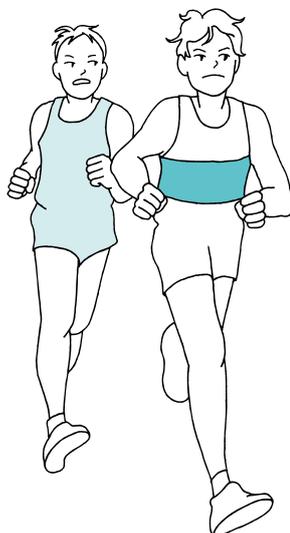
○学校開放事業の周知

学校体育施設の指定開放日や第3日曜日の開放事業、団体登録者への一般開放など、広く市民に周知し、学校体育施設の活用をはかります。

- ・指定開放日 4月から11月までの毎週水曜日、個人・10人未満のグループを対象に
小学校の体育館・グラウンドを開放
グラウンド 午前6時から7時30分まで
体育館 午後7時から9時まで
- ・第3日曜日 5月～7月、9月～11月の第3日曜日 9時から正午まで
小学校の体育館・グラウンドを開放
- ・団体登録使用 あらかじめ登録している学区内の住民10人以上で組織するスポーツ団体、社会教育団体に学校教育に支障のない範囲で開放

○学校開放スポーツ教室の実施

指定開放日や第3日曜日の学校開放に合わせ、体育指導委員やスポーツ推進員を講師として、ニュースポーツなどだれでも取り組めるスポーツ講習会を同時に開催し、スポーツに親しむきっかけづくりと学校開放事業の周知を行います。



3 指導者・リーダーの育成と活用

スポーツの楽しさを教え、生涯スポーツとの出会いへ導いてくれる指導者を育成するとともに、優れた指導者を活用できる環境づくりにつとめます。

(1) 優れた指導者の育成

指導者研修を充実させ、指導技術だけでなく、精神的なサポートや栄養面などスポーツ医科学も活用した総合的な指導ができる指導者を育成します。

○指導者講習会などの開催

安全への配慮や技術指導だけでなく、子どもたちにスポーツの楽しさを教えることのできる指導者を育成するため、スポーツ少年団や、ジュニアスポーツクラブなどの指導者を対象に指導者講習会を開催します。

○指導者への情報提供

秋田県やスポーツ関係団体が開催する研修会、講習会などの情報や、指導に役立つ情報の提供につとめます。

(2) スポーツ指導者の活用

関係機関と連携し、優れた指導者の活用をはかり、ニーズに応じた指導ができる体制をつくります。

○中学校部活動外部指導者派遣

指導者のいない中学校からの派遣要望をもとに、専門的な技術を有する社会人の指導者を派遣します。

○競技団体などとの連携による指導者派遣

指導者派遣の問い合わせや要望があった場合に、各競技団体などと連携し、ニーズに応じた指導者の活用をはかります。

○ 障がい者スポーツ指導者の確保

秋田県障害者スポーツ協会や秋田県障害者スポーツ指導者協議会、各競技団体と連携し、障がい者のニーズに応じた指導者の確保ができるよう障がい者スポーツ指導者の育成と活用をはかります。

○ 競技力向上につながる指導者の活用

競技団体や関係機関との連携をはかりながら、優れた指導者を発掘・確保するとともに、部活動指導者などの適正な配置に配慮し、競技力向上につながる指導者の活用をはかります。

(3) 体育指導委員・スポーツ推進員の資質の向上

体育指導委員・スポーツ推進員の資質の向上をはかり、地域のスポーツ振興をマネジメントできる人材を育成します。

○ 市民ニーズに応じた指導のための研修

ウォーキングやニュースポーツなど、市民のニーズに応じたスポーツ指導ができるよう研修を行い、地域でのスポーツ活動に役立てます。

○ 地域のスポーツ振興のマネジメントに向けた研修

地域の生涯スポーツ推進のため、体育指導委員・スポーツ推進員に対し、地域スポーツのマネジメント、コーディネートに向けた研修を行います。

○ 30代、40代の人材の育成

地域のスポーツ推進活動をより活発にするため、若い世代の体育指導委員・スポーツ推進員の育成をはかります。

- ・地域の絆づくりと体育指導委員・スポーツ推進員についての理解・関心が深まるよう、各地域で30代、40代、親子などが参加しやすいスポーツ行事や教室を開催し、スポーツ少年団指導者、親の会と交流をはかります。
- ・体育指導委員・スポーツ推進員が参加しやすいような研修会の開催方法を工夫し、地域行事への協力方法についても、柔軟に対応できるような体制を整えます。

4 競技スポーツとスポーツ関係団体との連携支援

スポーツによる交流で元気な秋田市をめざすため、スポーツを支える関係団体との連携を深め、競技スポーツや「みる」スポーツを支援します。

(1) 競技スポーツへの支援

関係団体と連携して、競技スポーツの底辺拡大や、競技力向上のための講習会を開催するなど、競技スポーツを支援します。

○ 競技団体、クラブチーム、プロチームなどと連携した講習会や練習会の開催

競技を普及する中で、優れた人材を発掘したり、優れた選手、コーチの指導を受けることにより、技術を学ぶとともに、高い目標を持つことができるよう、競技スポーツの底辺拡大、競技力向上につながる講習会や練習会をスポーツ医科学も活用しながら、競技団体などとの連携により開催します。

○ 東北大会、全国大会などに出場する小中学生への支援

保護者の経済的負担を軽減するため、スポーツの全国大会などに出場する小中学生の出場費の一部を補助します。

○ 競技力向上事業の活用

選手の能力を伸ばし、競技力の強化につながるトップレベルのアスリートを育成するため、秋田県で進めているタレント発掘事業や、高校生トップアスリートサポート事業などの周知につとめ、運動能力の高い児童生徒が活躍できるように学校や競技団体との連携をはかります。

(2) スポーツイベントの開催とまちの活性化

トップレベルのプレーに触れたり、全国から多くの人に参加・観戦する大会を開催することで、夢・感動・元気を広めます。

○ クラブチーム・プロチームとの連携

クラブチーム・プロチームとの連携をはかり、大会開催時のイベントや市民との交流で、「みる」スポーツがより楽しいものとなるよう、支援を行います。

- ・本市をホームタウンとするクラブチーム、プロチームのホームゲーム開催に合わせ、イベントや物販などによるにぎわいづくりを支援します。《企画調整課》
- ・ほかの競技団体とのバランスを考慮しながら、日程や会場の調整、周知活動の支援を行います。

○ 全国レベルの大会の誘致・開催

全国から多くの人に参加・観戦する大会を誘致・開催し、本市の活性化につなげるとともに、「はずむスポーツ都市」を全国にPRします。

○ 平成23年度インターハイの開催

平成23年に青森・岩手・秋田の北東北3県でブロック開催される全国高等学校総合体育大会（インターハイ）において、全国から集まる選手・観客に喜んでもらえるよう、市内高校生の協力を得て、スムーズな大会運営と本市のアピールにつとめます。

・秋田市開催種目／水球 バスケットボール女子 サッカー 柔道 ボクシング

・開催期間／平成23年7月28日～平成23年8月20日

(3) スポーツ関係団体・ボランティアとの連携

秋田市のスポーツを支える団体との情報交換・連携を進め、生涯スポーツの環境づくりにつとめます。

○ 秋田市体育協会・加盟団体、サークルなどの育成・支援

市民のスポーツ活動を推進するため、(財)秋田市体育協会や各競技団体、地区体育協会のほか、地域のサークルなどの育成支援につとめます。

○ スポーツボランティアの周知と活動しやすい環境づくり

スポーツボランティアの活動の周知や募集活動などを支援し、ネットワークづくりを推進します。

○ 各関係団体との情報交換・連携

各関係団体と連携してスポーツ振興を進めるために、(財)秋田市体育協会・加盟団体のほか、ボランティア団体や総合型地域スポーツクラブ、クラブチーム、NPO法人、医師会などとの情報交換を行います。

(4) スポーツを通じた交流活動

スポーツを通じた交流活動により、他地域や国際関係、異文化への理解を深めます。

○ 海外および国内の友好姉妹都市などとの交流

他地域や国際関係、異文化への理解を深めるため、関係機関と連携して、姉妹都市などとのスポーツによる交流を促進します。

5 スポーツ施設の整備・活用

市民のスポーツニーズに対応し、だれでも安全・快適に使用できるよう、生涯スポーツの拠点となる施設の整備充実と有効活用につとめます。

(1) スポーツ施設の有効活用

一般開放や大会などの日程の周知、利用しやすい予約システムにより、施設の有効活用をはかります。

○ 一般開放、大会日程などの周知

個人が気軽に利用できる一般開放日のほか、各体育館で行われる大会の日程、市立体育館のジョギングコースの利用時間、健康広場の開放日を周知し、利用者の利便性向上につとめます。

○ 予約案内システムの充実

使いやすい予約案内システムの充実につとめるとともに、予約方法の周知を行います。

○ ホームページを活用した施設の利用案内

ホームページに、市内スポーツ施設の概要、所在地、連絡先一覧を掲載し、施設の周知と活用をはかります。

(2) スポーツ用器具の整備・充実

市民ニーズやルール改正に対応した競技用器具の計画的整備と貸出用器具の充実をはかります。

○ 競技用器具の整備、維持管理、更新

老朽化した器具の更新と、市民ニーズやルール改正に対応した競技用器具を計画的に整備します。

○ ニュースポーツなどの貸出用器具の整備、更新

市民が気軽に楽しむことができるよう、ニュースポーツなどの貸出用器具の整備、更新を行い、貸し出しについての周知を行います。

(3) スポーツ施設の適正な維持管理と整備

生涯スポーツの拠点として、だれでも安全・快適に利用できる施設の整備と維持管理につとめます。

○ 安全で快適な施設の維持管理

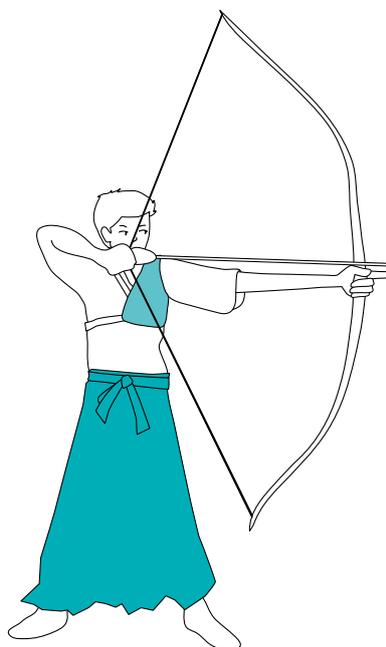
市民が安全・快適に利用できるよう、老朽化した施設の改修を行うほか、指定管理者制度の導入も含めて適正な維持管理につとめます。

○ 市民ニーズに対応した施設整備

市民要望の多い屋内型施設やグラウンドゴルフ場、人工芝グラウンドの整備について検討を進めるとともに、対応可能な改修などにつとめます。

○ 障がい者、高齢者にも使いやすい施設の整備・改修

施設の改修整備にあたっては、バリアフリーに配慮し、障がい者、高齢者の意見を取り入れながら、だれにでも使いやすい施設となるよう配慮します。



第5章 プラン推進のめやす

1 数値目標の設定

プランを着実に推進するためのめやすとして、最終年（平成27年度）における具体的な数値目標を設定します。

現状を示す指標としては、平成20年に行った「スポーツに関するアンケート調査」の数値および平成20年度、21年度の実数値を用います。

(1) 20歳以上の市民のうち、65%が週1回以上運動やスポーツを行うことをめざします。

週1回以上運動やスポーツを行う人の割合 38.4% → **65.0%**

[現状]・38.4%の人が週1回以上運動やスポーツを行っている。

(平成20年 秋田市教育委員会「スポーツに関するアンケート調査」)

[参考]・平成15年には31.8%が実施（秋田市）

- ・国では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を現在の45%からできるだけ早期に65%程度（3人の2人の割合）に引き上げることをめざしている。（平成22年「スポーツ立国戦略」）

(2) 20歳以上の市民のうち、30%が市や各地域・町内会・PTAなどが主催するスポーツ行事に参加することをめざします。

市などが主催するスポーツ行事に参加する人の割合 22.2% → **30.0%**

[現状]・22.2%の人が市などが主催するスポーツ行事に参加している。

- ・参加しなかった人の26.8%が行事を知らなかった。

(平成20年 秋田市教育委員会「スポーツに関するアンケート調査」)

[参考]・平成15年には23.7%が参加（秋田市）

(3) スポーツ少年団の90%が指導者研修に参加することをめざします。

ジュニア指導者養成セミナーへ参加する団の割合 79.5% → **90.0%**

[現状]・平成20年度は225団中、179団から参加

[参考]・平成21年度は開催方法の変更により、参加した団が48%

(4) 20歳以上の市民のうち、10%がスポーツボランティア活動に参加することをめざします。

スポーツボランティア活動に参加する人の割合 6.4% → **10.0%**

[現状]・6.4%の人がスポーツボランティア活動に参加している。

・18.4%の人が今後参加してみたい。

(平成20年 秋田市教育委員会「スポーツに関するアンケート調査」)

[参考]・平成15年には5.8%が参加(秋田市)

(5) スポーツ施設の有効活用をはかり、年間の利用延べ人数を90万人にすることをめざします。

1年間にスポーツ施設を利用する延べ人数 84万9千人 → **90万人**

[現状]・スポーツ振興課で管理する屋内外28のスポーツ施設を利用した人数848,575人(平成21年度)

・スポーツを行わなかった人43.7%のうち、55.2%が今後は行いたいと思っている。

(平成20年 秋田市教育委員会「スポーツに関するアンケート調査」)

・今後行いたい人は、平成21年度末の人口で換算すると約59,000人

2 進行管理と見直し

計画期間は平成23年度から平成27年度までとし、計画の達成状況について、平成26年度に市民アンケートによる調査を行います。

現在、国では平成22年8月に策定した「スポーツ立国戦略」を踏まえて、昭和36年に制定されたスポーツ振興法を見直し、新たに「スポーツ基本法」の検討を進めており、「スポーツ振興基本計画」もスポーツ基本法の制定に伴い、新たな計画を策定することとしています。

本市では、そのような状況を踏まえ、必要に応じ、計画の進行状況の調査やプランの見直しをすることとします。

また、生涯スポーツ社会の実現をめざして、関連する計画との整合性を図りながら、効果的な事業を実施し、スポーツを取り巻く情勢の変化に対応できるよう調整を行います。



資料



※総合型地域スポーツクラブとは<P1>

いろいろなスポーツを（多種目）子どもから大人・高齢者も（多世代）それぞれの目的・技術レベルに応じて楽しめ、だれでも参加できるスポーツクラブです。地域の学校や公共のスポーツ施設を活用し、会費制で（受益者負担）地域住民が主体的に運営（自主運営）するクラブで、地域のスポーツ文化や絆づくり、活性化の中心となることをめざしています。

平成22年8月に策定された国の「スポーツ立国戦略」では、生涯スポーツ社会を実現するための施策として、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備を第一に挙げており、地域の課題解決も視野に入れた「新しい公共」を担うコミュニティの拠点としての役割や、学校における体育・運動部活動の充実をはかるため、学校との連携が求められています。

本市では、現在11のクラブが設立されていますが、それぞれに特色があり、種目や世代が限られているクラブや、広範囲で活動しているクラブもあります。

※秋田市スポーツ振興基金とは<P15>

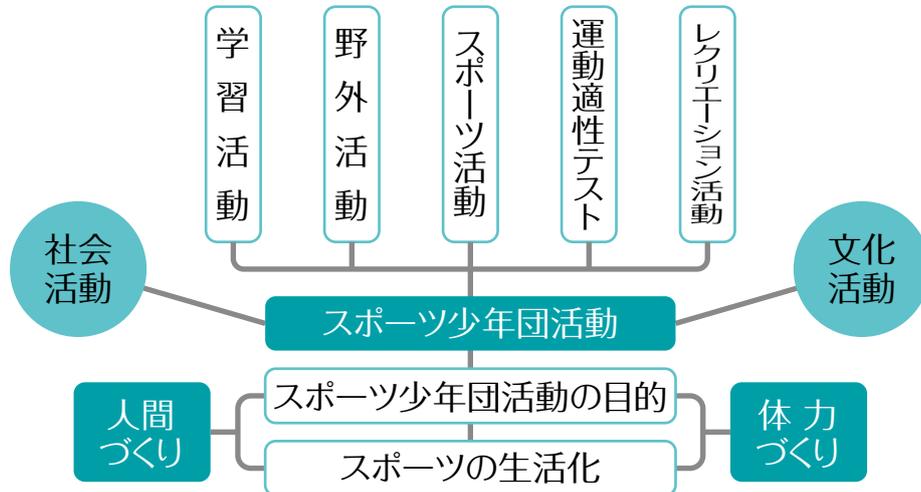
市民のスポーツ振興を目的に平成5年度に設置した基金で、平成12年度までに3億円を積み立て、平成13年度までその運用益をスポーツ振興に寄与する活動に対し、助成してきました。利率の低下により、運用益の活用を休止し、平成20年度からは限定的に一部を取り崩してスポーツ振興事業に充てています。

※スポーツ少年団とは<P15>

子どもたちが自由時間に、地域社会の中でスポーツを中心としたグループ活動を行う団体で、それぞれの団が自主的で主体性をもった活動を展開しています。子どもたちの体力の向上や社会性を身につけさせること、生涯にわたりスポーツを行う習慣を養うことを目的としています。本市では、223団、4,525名の団員（平成22年度）がおり、大部分が小学校4年生から6年生で、単一種目型の小学校区スポーツ少年団となっています。また、小学生の27.7%（平成22年度）が加入しており、全国でも高い加入率となっています。

スポーツ少年団の活動分野

(日本スポーツ少年団ガイドブックより)



※ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは<P19>

運動器の障がいにより、要介護になるリスクの高い状態のことで、加齢に伴う変形性関節症、骨粗鬆症などの疾患や、筋力やバランス能力など運動機能の低下が原因となっています。

※体育指導委員とは<P20>

市町村のスポーツ振興のため、スポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導助言を行うもので、スポーツ振興法第19条により定められています。社会的信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を持ち、その職務を行う熱意と能力を持つ者を教育委員会が委嘱しており、本市では、96人の体育指導委員が各地区で活動しています。

※スポーツ推進員とは<P20>

秋田市独自の制度で、体育指導委員とともに地区スポーツ活動を推進するため、秋田市教育委員会の委嘱により、市や地区体協のスポーツ行事への運営協力、ニュースポーツの指導・普及を行います。平成22年度には186人のスポーツ推進員が活動しています。

※ジュニアスポーツクラブとは<P21>

スポーツ少年団加入前の小学校1～3年生を対象に、体を動かすことの喜びや楽しさを体験させ、運動好きな子どもを育てることをねらいとしています。学校体育施設を活用し、地域の指導者がレクリエーションやニュースポーツ、運動などを指導しています。平成10年から16年まで少年スポーツ地域活性化事業として、市で体制づくりを支援し、多いときは12地区で活動していましたが、現在は4つの地区で運営されています。

※ニュースポーツとは<P21>

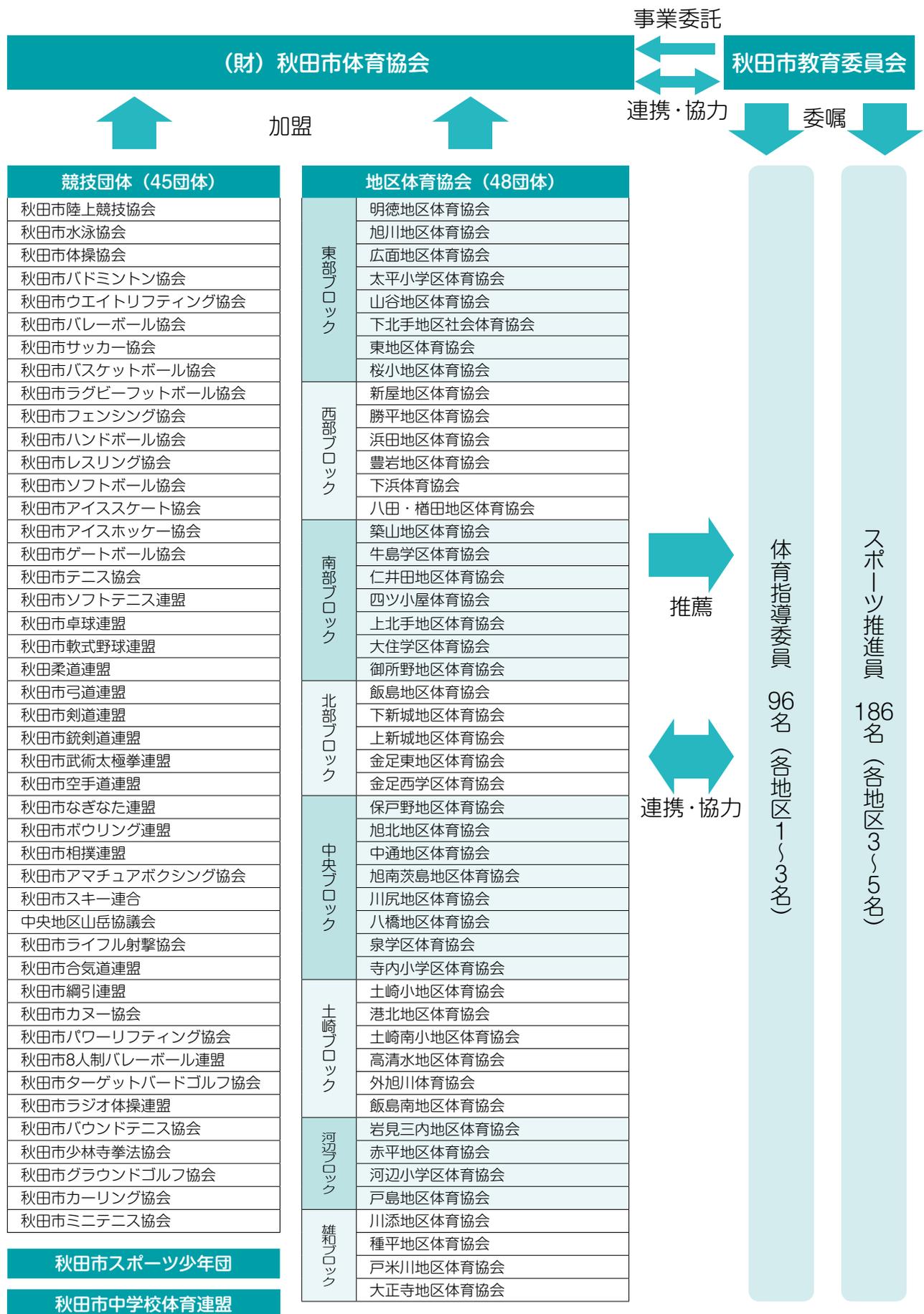
だれもが気軽に楽しく取り組めるスポーツとして考案されたもので、たくさんの種類があります。本市では、体育指導委員やスポーツ推進員がニュースポーツの指導・普及にあたり、現在、多くの愛好者がグラウンドゴルフやミニテニス、ソフトバレーボール、バウンドテニス、ターゲットバードゴルフなどのニュースポーツを楽しんでいます。また、秋田県で発案されたニュースポーツとして、8人制バレーボールが盛んに行われています。

※広域スポーツセンターとは<P22>

クラブの設立・育成やマネージャー・指導者の育成に関する支援、スポーツ情報の整備・提供など、総合型地域スポーツクラブの運営等を支援することを目的に県内3カ所に設置された県の機関で、秋田市を担当する中央地区広域スポーツセンターは、スポーツ科学センター内に設置されています。

※(財)秋田市体育協会とは<P22>

昭和8年に発足し、昭和55年に財団法人として認可を受け、市民の体育・スポーツの振興と各種スポーツ団体の育成をはかっています。加盟団体は、45競技団体、48地区体育協会、秋田市スポーツ少年団、秋田市中学校体育連盟の95団体となっており、全市一斉スポーツレクリエーション大会や市民スポーツ祭の開催、秋田市スポーツ賞の表彰など、スポーツ振興に関する業務を行っています。



資料2 秋田市スポーツ施設一覧

No.	名称	所在地	連絡先電話
1	秋田市立体育館	八橋本町六丁目12-20	866-2600
2	秋田市立茨島体育館	茨島一丁目4-71	865-1417
3	秋田市立河辺体育館	河辺和田字上中野186	882-3654
4	秋田市立雄和体育館	雄和妙法字上大部95-1	886-2844
5	秋田市立雄和南体育館	雄和神ヶ村字陳笠259	887-2318
6	屋内多目的運動場（光沼アリーナ）	土崎港相染町字沼端77	847-4602
7	一つ森公園弓道場	下北手桜字蛭沢62-1	831-8300
8	北野田公園アリーナ・テニスコート	河辺北野田高屋字小高37-1	881-1950
9	八橋運動公園陸上競技場	八橋運動公園1-10	823-1472
10	八橋運動公園テニスコート	八橋運動公園内	
11	八橋運動公園多目的グラウンド	八橋運動公園内	
12	八橋運動公園球技場	八橋運動公園1-1	883-1870
13	八橋運動公園健康広場	八橋運動公園内	
14	八橋運動公園第2球技場	八橋運動公園内	
15	八橋運動公園硬式野球場	八橋運動公園1-7	867-1000
16	八橋運動公園相撲場	八橋運動公園内	823-1472
17	土崎市民グラウンド	土崎港西四丁目3-1	866-1055
18	勝平屋内ゲートボール場	新屋豊町1-31	
19	勝平市民グラウンド	新屋豊町153-1	
20	雄和花の森野球場	雄和石田字蟹沢39	886-2844
21	雄和花の森テニスコート	雄和石田字蟹沢41	
22	スポパークかわべ	河辺岩見字萱森上野17-2	881-2411
23	雄和B&G海洋センタープール	雄和神ヶ村字陳笠258	887-2318
24	河辺岩見三内野球場	河辺三内字上野58-2	882-3654
25	河辺和田野球場	河辺和田字和田224	
26	河辺戸島野球場	河辺戸島字上野50-1	
27	雄和新波野球場	雄和新波字寺沢31-1	887-2318
28	北部地域運動広場	下新城笠岡字笠岡47	873-2112
29	飯島地域運動広場	飯島字古道92	845-1731
30	外旭川地域運動広場	外旭川八幡田一丁目18	868-1500
31	茨島運動広場	茨島一丁目12-12	865-1417
32	東部地域運動広場	広面字釣瓶町13-3	834-2206
33	横森地域運動広場	横森三丁目3-1	828-4217
34	西部地域運動広場	新屋大川町20-5	
35	八田地域運動広場	下浜八田字餅田42-2	
36	手形中台地域運動広場	手形字中台59-2	
37	上北手地域運動広場	上北手猿田字館ノ下38	
38	湯野目地域運動広場	雄和下黒瀬字湯野目39	

No.	名 称	所在地	連絡先電話
39	榎山緑地運動公園	榎山南中町1-9	
40	沼田近隣公園運動広場	山王中園町8-1	
41	秋操近隣公園テニスコート	泉中央六丁目3-1	829-0223
42	一つ森コミュニティ体育館	下北手桜字蛭沢141-7	831-8300
43	一つ森公園テニスコート	榎山太田沢	831-8300
44	クアドーム・ザ・ブーン	仁別字マンタラメ213	827-2301
45	太平山スキー場オーパス	仁別字蛇馬目沢111	827-2221
46	太平山リゾート公園テニスコート	仁別字小水沢134	827-2270
47	太平山リゾート公園 グラウンドゴルフ場		
48	光沼近隣公園テニスコート	土崎港相染町字沼端77	847-4602
49	雄物川河川緑地野球場	仁井田字新中島828-24	829-0223
50	雄物川河川緑地テニスコート		
51	豊岩運動広場	豊岩豊巻字内縄尻90-12	828-2135
52	秋田リバーサイドグリーン	仁井田字新中島828-24	829-0223
53	御所野近隣公園野球場	御所野湯本三丁目1-1	829-0223
54	御所野近隣公園テニスコート		
55	御所野総合公園テニスコート	御所野地藏田3-1	826-0620
56	サンライフ秋田	八橋南一丁目8-7	863-1391
57	西部体育館 (秋田市勤労者体育センター)	新屋烏木町2-55	828-1180
58	秋田テルサ	御所野地藏田三丁目1-1	826-1800
59	秋田市リフレッシュガーデン	御所野地藏田三丁目1-2	826-1717
60	浜田森林総合公園テニスコート	浜田稲見沢地内	828-5322
61	浜田森林総合公園林間広場		
62	北部農業者総合研修センター	下新城中野字前谷地263	873-4839
63	雄和農林漁業者トレーニングセンター	雄和種沢字戸草沢119-5	886-5550
64	北部市民サービスセンター体育館	土崎港西五丁目3-1	

※No64は平成23年5月に開館予定

資料3 主な関係機関

(国・県関係)

No.	名称	所在地	連絡先電話
1	文部科学省 スポーツ・青少年局 企画・体育課	東京都千代田区霞が関三丁目2-2	03-6734-3001
2	秋田県企画振興部スポーツ振興課	山王四丁目1-1	860-1239
3	秋田県教育庁保健体育課	山王三丁目1-1	860-5201
4	秋田県スポーツ科学センター	八橋運動公園1-5	864-7911
5	秋田県広域スポーツセンター	八橋運動公園1-5	864-7911
6	財団法人秋田県体育協会	八橋運動公園1-5	864-8090
7	秋田県スポーツ少年団事務局	八橋運動公園1-5	866-3916
8	秋田県障害者スポーツ協会	旭北栄町1-5 社会福社会館内	864-2750
9	秋田県障害者スポーツ指導者協議会	旭北栄町1-5 社会福社会館内	864-2750
10	心身障害者総合福祉センター（体育館）	旭北栄町1-5 社会福社会館内	864-2700
11	秋田県勤労身体障害者スポーツセンター	新屋下川原町2-4	863-7762
12	秋田県老人クラブ連合会	旭北栄町1-5 社会福社会館内	864-2723
13	財団法人秋田県長寿社会振興財団(LL財団)	御所野下堤五丁目1-1	829-2888

(秋田市関係)

No.	名称	所在地	連絡先電話
14	財団法人秋田市体育協会	八橋運動公園1-1 球技場内	896-5331
15	秋田市スポーツ少年団事務局	八橋運動公園1-1 球技場内	853-4461
16	秋田市体育指導委員連絡協議会事務局	山王二丁目1-53 スポーツ振興課内	826-9044
17	秋田市身体障害者協会	八橋南一丁目8-2 老人福祉センター内	866-1341
18	秋田市老人クラブ連合会	八橋南一丁目8-2 老人福祉センター内	866-1341
19	秋田市社会福祉協議会	八橋南一丁目8-2 老人福祉センター内	862-7445

資料4 策定経過

年 月			策定作業	市民からの意見聴取・公表
20年	7月			スポーツに関する市民アンケート調査実施
21年	1月			調査結果概要版をスポーツ振興課ホームページで公表
	10月		マスタープランに関する調査、試案作成業務を委託	
22年	3月		骨子案作成	
22年	4月			
	5月			
	6月	28	素案作成 第1回庁内連絡会開催	
	7月	14 27	素案修正 第2回庁内連絡会開催 ＜第1回検討委員会開催＞	
	8月	24 26	素案修正 ＜第2回検討委員会開催＞ 教育委員会に素案説明	
	9月	27	マスタープラン案作成 議会にマスタープラン案説明	9/29～10/18 市民100人会からの意見募集 パブリックコメントによる意見募集
	10月	1 20	スポーツ振興議員連盟に説明	体育指導委員・スポーツ推進員からの意見聴取
	11月	16 25	最終案作成 ＜第3回検討委員会開催＞ 教育委員会決定	
	12月	17	議会報告	
23年	1月	下旬	冊子、概要版作成	
	2月	上旬		ホームページで公表、関係機関への周知
	3月			

資料5 策定検討委員会委員名簿

No.	氏名	所属機関・役職
1	川口 房 男	(財) 秋田市体育協会会長
2	佐藤 政 信	秋田市スポーツ少年団本部長
3	野中 歌 子	秋田市体育指導委員連絡協議会会長
4	藤澤 秀 男	秋田市中学校体育連盟会長 (秋田市立御野場中学校長)
5	高橋 重 美	河辺小学区体育協会会長
6	安部 昭 子	秋田市8人制バレーボール連盟会長
7	伊藤 君 男	秋田市あるけあるけ協会事務局長
8	川田 直 政	秋田市身体障害者協会事務局長
9	黒木 一	秋田市老人クラブ連合会会長
10	渡辺 英 直	NPO法人スポーツクラブあきた代表
11	菅原 香 織	mottoわか杉ネットワークあきた代表 (秋田公立美術工芸短期大学助教)
12	樋岡 康 平	NPO法人トップスポーツコンソーシアム秋田 マネージャー
13	森田 信 博	秋田大学教育文化学部教授
14	湊 昭 策	日本体育協会公認スポーツドクター (山王整形外科医院院長)
15	安藤 正 之	秋田市教育委員会教育次長

(敬称略、順不同)

～ はずむスポーツ都市 ～
第2次秋田市スポーツ振興マスタープラン

平成22年11月策定
平成23年2月発行

発行／秋田市教育委員会

編集／秋田市教育委員会スポーツ振興課

〒010-0951 秋田市山王二丁目1-53 TEL 018-866-2247

FAX 018-866-2545 E-mail ro-edsp@city.akita.akita.jp

財団法人秋田市体育協会

〒010-0974 秋田市八橋運動公園1-1 TEL 018-896-5331

印刷／株式会社 高正印刷所

〒010-1613 秋田市新屋朝日町13-24 TEL 018-864-0321

